

「卒業する人々に」
櫻の花ちりばんにしも
わかれ行く 遠きひとり
と 君もなりなむ
（「春のことぶれ」）
釈 道空

国学院大学 平成30年3月10日(出) 定期号(毎月10日発行) 1部20円
【発行】国学院大学 【編集】総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 【電話】03(5466)0130 【FAX】03(5466)0528

祭 儀 ■ 入学奉告祭 4月1日(日) 午前9時 神殿



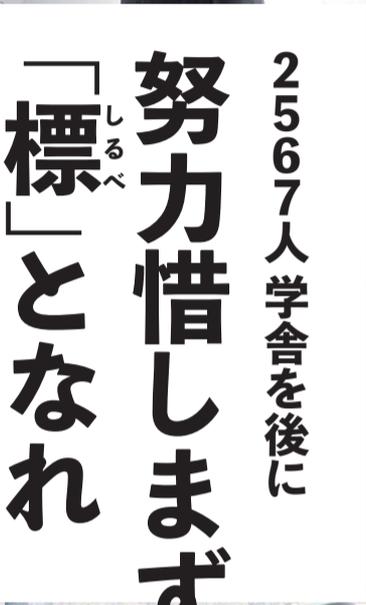
「標」となれ

2567人学舎を後に

努力惜しまず

「旅立ちの春」にあたり、赤井益久学長ら教職員や在学生が「はなむけの言葉」を寄せ、126期生の大きな活躍に期待の念を込めた。一方、3月末で定年退職を迎える教職員は9人。長年の職務を振り返り、本学に対する思いを込め「惜別の言葉」を寄せた。

本校は、平成29年度(126期生)の大学院と法科大学院の学位記授与式を3月16日に渋谷キャンパス常磐松ホールで、5学部卒の卒業証書・学位記と専攻科・別科の修了証書の授与式を3月18日にグランドプリンスホテル新高輪「飛天」で挙行。今年度は大学院81人(博士課程前期70人、博士後期課程11人)が修了を迎え、28人が所定単位修得退学。法科大学院で3人が修了する。5学部2407人(文学部787人、経済学部590人、法学部522人、神道文化学部173人、人間開発学部335人)9月卒業含む、専攻科40人、別科8人の合計2567人が学舎を後にする。



みはるかすもの

列島が、メダルラッシュに沸いた平昌五輪が幕を閉じた。4年に1度の大舞台には、そこに懸ける選手たちの人間模様が映し出される▼スピードスケート女子500メートルで、優勝した小平奈緒選手は、五輪新記録を打ち立てた直後、歓声に沸く会場の日本人ファンらに対し、口元に指を当て静かにするよう配慮を求めた。続くレースを滑り2位に終わったライバル、李相花(イ・サンファ)選手に、競技後に歩み寄り、健闘をたたえ合った姿は国内のみならず現地で称賛を浴びたという▼自身を表す言葉に「求道者、情熱、真摯」を挙げた小平選手。世界の大舞台で見た実力もさ

卒業おめでとう。定められた課程の学業を修めて成果を挙げ、新たな門出に際して心よりお祝いを申し上げます。

卒業は人生の大きな節目ですが、学ぶことに終わりはありません。4年間を振り返り、多くのものが心に去来していると思います。諸君の輝かしい未来は、確固たる過去の延長線上にあり、決して偶然にやって来るものではありません。4年間の学修の成果が、社会に出てから役に立つことでしょう。国学院大学は中期計画「21世紀研究教育計画」(第4次)において、5年後のあるべき姿として「人文・社会科学系の『標』となる」、教育目標として「主体性を持ち、自立した



豊かな知

新たな世界でも考え続けよ

学長 赤井益久

「大人」の育成を掲げました。これはこれまでも、そしてこれからも変わることのない大学の伝統として重視してきた目標です。8つの戦略、58の取り組みから成り立ちます。中でも諸君が卒業時に、「豊かな知」が身につくように考えました。豊かな知とは、「悩む力」「考える力」「多様性を受け入れ生き抜く力」と表現しています。不透明な社会、予知不可能な変化が待ち受ける未来にあつて、課題や困難に直面しても、悩み続ける先にしか答えはありません。考え続けることによって未来の扉はきつと開きます。価値観が多様化し、規程が一定的ではない複雑な社会構造の出現は、それを受け入れるとともに、自らが積極的に関わることでその世界に生きる意味と価値を手に入れることができます。

大学が「標」を掲げましたのは、自らが目標や指標となると主張しているのではなく、それに向かって努力することだけは惜しまない意思を表しています。

学び得た「豊かな知」によって、輝かしい未来が諸君に開かれますよう、心より祈念しています。

卒業おめでとう

目先の利を追うな



大学院委員長 金子修一

博士課程後期並びに博士課程前期を修了される皆さんに、大学院委員長として心からお祝いを申し上げます。今年度は文学・法学・経済学の3研究科を合わせて課程博士の学位を取得して後期を修了する方が11人、修士学位を取得して前期を修了された方が70人おられます。これだけの方々に学位を授与できることは教職員にとっても誇りでありますが、ただ、今や日本人は人生80年、30歳前後で後期を修了したとしても、それからの半世紀をどう過ごせばよいのでしょうか。私が前に勤めていた大学の定年は65歳でしたが、定年を迎えたある先生が卒業生に向かって次のようなことを言っていました。「65年間生きてきてこれだけは間違いなく言える。目先の利を追うな。目先の利を追うと人間が小さくなる」と。

皆さんの中にはそのまま研究者の道を進まれる方、社会人として別の道を進まれる方、いろいろあるかと思いますが、例えば研究者として目先の利を追うということは、書きやすいテーマばかり選んで論文を書くということでしょう。ただそれは、本人の研究は自転車操業的なものになってしまいます。30歳くらいから本格的に研究を始めたとして、70歳くらいまで息切れせずに研究を続けるにはどうすればよいか。逆説的ですが、専門家であり続けようと思ったら、一方で専門以外の勉強も必要だと思います。専門家に限りませんが、生きていく上で必ず壁にぶつかるでしょう。その時に一度前に戻って自分を振り返ることのできる力、それがどれほどあるかで壁に対する処し方も変わってくるでしょう。「目先の利を追うな」は、これからの皆さんの人生にも必要な言葉となってくると思います。

人の身になって



文学部長 石川則夫

大学卒業というと、夏目漱石の『こころ』を思い出します。前半に登場する「私」は東京での学生生活を終え、卒業式後に帰郷します。実家では父親が「卒業が出来てまあ結構だ」と何遍も繰り返して喜びますが、「私」は妙に冷めていて「大学くらい卒業したって、それほど結構でもありません」と答えています。すると父親は「大きな考えを持っているお前から見たら、大学を卒業したくらいで結構だ結構だと言われるのは余り面白くないだろう。しかし、おれの方から見てご覧、立場が少し違っているよ。つまり卒業はお前にとってより、このおれにとって結構なんだ。分かったかい」と言うのです。老齢の自分にとっては息子の卒業がなによりうれしいのだと論されるのです。その言葉に対して「私は一言もなかった」とあります。つまり、「私」のうぬぼれを思い知らされる一言だったわけです。

他人の身になって、というのはありふれた注意かもしれません。しかし、今後の仕事、家庭、社会にあってもっとも重要なことです。そして、この姿勢こそ学問の核心であり、それは皆さんの心に育まれているはずです。

ご卒業おめでとうございます。皆さんの努力に敬意を表します。

青年時代の学びの究極の目的とは



法学部長 門広乃里子

今年は、明治維新後、日本が近代国家へと歩み始めて150年。2つの世界大戦を経て、私たちは今、自由・平等、民主主義、法の支配という理念を、世界の多くの人々と共有しています。近代、現代と、150年かけた社会の変容は、目を見張るものがあります。これから皆さんを待ち受ける社会は、少子高齢化、グローバル化のさらなる進展、科学技術の飛躍的進歩、とりわけ人工知能の進化を背景に、早い速度で変化が進むものと予想されます。

社会の変化の過程で日々新たに生じ、解決を迫る諸問題に対処しうる能力を高めることこそが、青年時代の学びの究極の目的であると、J・S・ミルは、1867年2月1日のセント・アンドルーズ大学名誉学長就任講演の中で述べています。明治元年が1868年ですから、その前年です。そして、偶然か、はたまた必然か、皆さんが入学した当時の本学法学部のディプロマ・ポリシーには、建学の精神のもと、「問題を的確に解決する力を持って社会に貢献できる」学生の育成が掲げられています。皆さんが、教養と専門知識をもとに鍛えた思考力・判断力・表現力を持って、多様な価値観を持つ他者と協働し、日々生じる問題に対処していかれるであろうと期待しています。ご卒業おめでとうございます。

「有情活理」で自分が描く夢の実現を!



人間開発学部長 田沼茂紀

ご卒業おめでとうございます。皆さんの人生の晴れの門出と前途を祝し、私の日頃の戒めとしている言葉をお贈りします。

私が大事にしているのは、「有情活理」という言葉です。有情活理とは文字通り、どんなに主張が正しくても、そこに他者を思いいたわる情がなければ人は聞き入れないということです。「やってみせ、言ってみせ、動かしてみせ、褒めてやらねば人は動かじ」という同様の名言も思い起こされます。

教育学を研究分野とする私は、これまで学校教育や教員養成の仕事に多年携わってきました。そんな中で教育問題が取り沙汰される度に思うのは、教育政策にしても、教員養成や教員研修にしても、全てはそれに携わる人の「心の在り方」に尽きるということです。

偉大な哲学者であり、教育学も講じたエマヌエル・カントは、著書『教育学講義』の中で「人間は人間によってのみ教育される」と述べています。また、「人間は教育によってのみはじめて人間となることができる」という名言も残しています。

「教育は人なり」とは言い尽くされた言葉ですが、学校社会に限らず、人間社会の全ての場面で「有情活理」の精神が求められていると実感しています。人が人と支え合って生きるためにはまず相手と「話し合い、耳を傾け、承認し、任せてやらねば人は育たず」という気持ちは何よりも大切であると思います。人を育てて自分も育つ、そんな「有情活理」の精神をぜひとも大切にしていたいただきたいと思えます。皆さんの洋々たる前途に期待します。



卒業おめでとう

「常識」、さらに「創意」・「工夫」

法科大学院の課程を修了される方にお祝いを申し上げます。さらに、在学中の各自のご努力を直接、間接に見聞している者として、心より敬意を表します。

あなた方は、これから「本番」に向かわれることとなりますが、このたびの「修了」という契機に、一つのアドバイスをいたします。

まず一般的に、どのような社会においても「常識」が存在します。常識とは、「だれもが共通して持っている知識や分別」を意味するようです。とすれば、「非常識な人」はその社会では生きにくいでしょうし、最悪の場合には、社会からドロップアウトしかねません。しかし「常識人」は、その個人としての特性を必ずしも表現できず（せず）、その存在価値をアピールできないこともありえます。常識をわきまえつつ、個性を主張することが肝要なのでしょう。もともと、これを実践することは必ずしも容易ではないと思われませんが。

さてそのことを「本番」に適用してみましよう。「常識」とは「判例」「通説」を意味します。「定義」や「判例理論」を理解していなければ、この者は常識をわきまえていない人物であるとのレッテルを貼られ、到底「合格ライン」に到達しません。では、常識をわきまえていれば、すなわち「定義」や「判例理論」を理解し、さらにそれを表現すれば、「合格」するでしょうか。その答えはご存知でしょう。その局面でさらに必要なのは「個性」です。それは「少数説」を主張するということを必ずしも意味しません。「判例」を踏まえただけで、なお「個性」を表現することが肝要でしょう。ご健闘を祈念いたします。



法科大学院長 武田誠

これからが学びの本番です

ご卒業、おめでとうございました。学校教育の場での学びを無事に終え、新たな場へと巣立っていかれる皆さんへ、心よりお祝いと激励の挨拶を贈ります。

皆さんは、これからいよいよ自分の人生を本格的に歩み出します。大人として生きていくこと、職業人として社会的役割を担うことなど、人生という大海へ漕ぎ出します。いよいよ新たな場で新たな問題に直面し、自らのように生き、対処していくのが問われていくこととなります。だから、これからが学びの本番なのです。

大学は、知の宝庫です。卒業しても図書館もデータベースも利用できます。手続きすれば、貸し出しも可能です。教員や同級生をはじめとする院友とのつながりは、多くの気づきや知恵、そして元気を与えてくれるでしょう。卒業してこそ、学びの大切さを実感することが多いと思います。その際、どうぞ遠慮なく大学を利用し、学生時代の絆を生かしてください。また、先輩たちへ、現実を教える語ってあげてください。教えることは、学びの成果を確認することになるからです。大学は卒業生にとっても学びの場なのです。お元気に活躍されることを切に願っています。



経済学部長 橋元秀一

自らに照り明かりき

いよいよ君たちの門出の日です。卒業後、皆さんの行く手には何が待ち受けているのでしょうか。予測し難い未来を生きねばならない君たちに、わが国最古の古典『古事記』の言葉を贈りたいと思います。

神代の昔、太陽の女神・天照大御神は、心に傷を負い、石屋戸の奥深く引きこもりました。太陽神の引きこもりによって、この世は「死の暗黒」に閉ざされたのです。

このカタストロフに際して、神々が立ち上がりました。光を取り戻すために、日本の神様たちは何をしたのでしょうか。それは、各々の得意分野を生かすこと、そして一緒に祈り、一緒に笑うことでした。

君たちは、歴史の大きな曲がり角ともいえるこの時代に生を享けました。きつと君にしかできないことがあるはずですよ。君の夜明けが、日本の夜明け、ひいては世界の夜明けをもたらすかもしれないのです。

「天照大御神出で坐しし時、高天原も葦原中国も、自らに照り明かりき」。闇に閉ざされたときこそ、懸命に光を求めましょう。未来に向かう希望の光を。



神道文化学部長 武田秀章

慎みて怠ることなかれ

神道学専攻科修了生の皆さん、修了おめでとうございました。皆さんは修了した今日から、神道人として新しい一歩が始まります。この1年間は、学問の基礎を伝えたいにすぎません。あとは自身で、学問と信仰とを結びつけ、吉田神道の始祖吉田兼俱が大事にした言葉である「慎みて怠ることなかれ」を実践し、日々の研鑽に努めていってください。

現在、国学院大学博物館において、企画展「吉田家・神道と典籍を伝えた家」が開かれています（4月15日まで）。このなかには、吉田神道の伝承について記した後陽成天皇宸筆「吉田齋場記」の掛け軸が展示されており、その最後にこの言葉が書かれています。

吉田兼俱は全国の神職に向けて、秘伝伝授に合わせて、この言葉を伝えました。『日本書紀』などの古典によると、景行天皇のとき、日本武尊は東国平定にあたり伊勢神宮に赴き、天照大神にお仕えしていた倭姫命から草薙剣とともに、この言葉をいただきました。

「慎みて怠ることなかれ」は、天照大神から示された日本人の真摯な生き方といってもよいでしょう。修了生皆さんはこの言葉を正しく受け継いでいってください。修了生皆さんの今後のご多幸をお祈り申し上げます。



専攻科長 岡田莊司

卒業おめでとう

別科生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。神社での実習を重ねながら、夕刻から大学で勉強して、晴れて神職資格を取得されたこと、心からお祝い申し上げます。それぞれの神社での学習と培った人間関係、少人数で先生方から教えを受けた日々、こうした得難い体験は、これからの皆さんの人生に、大きな糧となるでしょう。

皆さんは、これから神職として第一歩を歩み始めます。大きな抱負を持ち、期待と不安の中の出発でしょうが、着実に堅実に歩みを進めてください。急ぐ必要はありません。ただ、今の緊張した心持ち、初心を忘れないでください。

長く神職を務められた長老は、何か共通した雰囲気があるように思います。祭典奉仕には、斎戒と清めが必要不可欠で、清浄が尊ばれます。そこで清廉な人格が自然に養われ、会うだけで清らかな人柄が伝わってくるのでしょうか。

これから神明奉仕が始まるわけですが、誠実にご奉仕し信頼される神職となり、いつの日か後輩から憧れを持たれるような、そんな神職に成長してください。



別科長 茂木貞純

ご卒業おめでとう!!! この言葉を贈ります

卒業生、修了生の皆さま、
おめでとうございます。
国学院での学びはいかがでしたか?
学舎から巣立つ皆さまへの
はなむけの言葉として、
教職員・在学生から送るべきな
言葉をお届けします。



(協力) 学生、教職員有志
(企画・撮影) 学生アドバイザー

平成26～30年 こんな時代でした

8月には天皇陛下が「讓位」のお気持ちを発表され、国民的グループ「SMAP」の解散発表、リオ五輪での日本勢躍進も同じ月だった。29年にブレイクしたのは中学生模士の藤井聡太さん。政界は「モリカケ問題」に揺れたが、秋の衆院選では自民が大勝。30年2月に開催された平昌冬季五輪では、日本勢として史上最多となる13個のメダル獲得で列島が沸いた。

126期の学部生が入学した平成26年は、日本のつばヒル「あへのハルカス」が3月に開業し、9年以來17年ぶりに消費税が引き上げられ5%から8%になった年でもあった。27年6月に選挙権年齢が「18歳以上」となり、秋にはラグビー・ワールドカップで日本代表の歴史的勝利と「ルース」に五郎丸歩選手が「ルーティン」が話題に。4月に熊本地震が発生した28年。

「国学院大学学報」購読のご案内

本学の機関紙を定期購読してみませんか?

「国学院大学学報」は、本学の学生、院友、教職員の活躍や、本学のニュースをお届けする機関紙(年11回発行、8月は休刊)です。年間購読料は500円(税込み・送料含む)。購読ご希望の方は、広報課までご連絡ください。感想などもはがき・封書・ファクス・Eメールにて随時募集しております。

お問い合わせ先
国学院大学総合企画部広報課
〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
【電話】03・5466・0130(直通)
【FAX】03・5466・0528
【メール】kouho@kokugakuin.ac.jp
【HP】http://www.kokugakuin.ac.jp/

●地域発展の使命を

新しい会館の完成とともに、全国の院友の間に組織の強化・活動の活発化への新たな息吹がみなぎりはじめました。現在の会館は、院友の活動拠点としてのみならず、学術・文化・芸術活動の場としても利用され、15万人を超える会員の協力により、若い世代へと本会が飛躍、発展する気運が高まり始めました。

●院友会館と財団法人の設立

院友の団結は他大学に類を見ないほどで、各地・職域で活発な活動が続けられました。昭和6年には大学に隣接した現在地に1085平方メートルの土地を求め、組織も財団法人となり、7年には初代会長・宮西惟助氏の推進によって「院友会館」(627平方メートル)が鉄筋コンクリート2階建てで建築されました。会館は本会活動の拠点となり、卒業生・在学生・教職員の会合などにも盛んに活用されました。しかし、55年ごろから老朽化・狭小化などにより新たな会館建設を求めた声が高まり、第9代・小林武治会長のもと60年度から募金を開始。61年4月に着工し、平成29年に発足130周年と開館30周年を迎えました。

●創設の原

明治15年8月に国学院大学の母体・皇典講究所が設立され、20年にその卒業生が「水穂会」を結成したのが院友会の原点です。23年に「国学院」が皇典講究所の教育機関として設置され、27年その卒業生によって「水穂会」とは別に「院友会」が組織されました。その後、2つの会がともに活動するようになり、今日では「院友会」として統一されています。

●二般財団法人国学院大学院友会へ移行

平成18年5月に公益法人制度改革関連法が成立したことに伴い、新しい制度に移行するため「定款」(法人の基本規則)を作成、24年6月15日に内閣府への移行認可申請を行いました。その後、9月19日付で内閣府から許可証が交付され、10月1日付で「一般財団法人国学院大学院友会」の登記を行い、新たな組織として再スタートしました。



国学院大学院友会の歩み

明治20年「水穂会」結成が原点

国学院大学の卒業生は、「院友」と称され、一般財団法人国学院大学院友会(吉田茂穂会長)昭40卒・73期政経、昭41修・74期神専攻)の会員となります。平成30年3月1日現在、院友の総数は15万人を超えています。また、全ての都道府県に支部があり、合計59支部を数えます。他に学術関係、

マスコミ関係、経済学部関係、法学部関係と職域などに分かれた、4協力団体もあります。本会の活動は、母校・国学院大学の設立の趣旨を発揮し、本会の発展と国学院大学の隆昌に寄与することを目的としています。本会ではこの目的を達成するため、「院友大会」や「新年院友交流会」をはじめ、各種講座、講演会、コンサート、茶道教室などを催しています。さらに、同窓会報である「院友会報」の発行、公益事業の展開、院友の活動拠点となる「院友会館」の運営も行っています。また、各支部も地域における公共活動や事業を行っています。本会の活動などにつきましては、ホームページ(Url://www.kokugakuin.or.jp)をご覧ください。

■院友会事務局(☎03・3400・7781)



院友大会、ホームカミングデー再会は母校で!

5月26日午後6時から院友大会を、10月20日にホームカミングデーをそれぞれ開催します。クラスやゼミ、部活動の仲間同士、母校で旧交を温めませんか。院友大会の会場は、渋谷キャンパス130周年記念5号館「アリーナ」です。詳細は院友会報、院友会ホームページをご覧ください。皆さまのご参加をお待ちしております。

国学院大学の同窓会

「ようこそ!」



惜別の言葉



地に足を下ろしながら考え抜こう

文学部教授(特別専任) 宮元 啓一

哲学には、他の学問分野と違い、これがその専門分野だといえるものはありません。本当のところは何なのだろうと、強く感ずるものならば、全て哲学的思索の対象となります。決して誰か著名人を権威とすることなく、ただし、これまでにその対象分野に深く関わって思索を練り広げた人々の業績をたどることも、独断を回避するための重要なものではあります。自分の頭で考え抜き、そしてどこからかた借りてきたのではなく自身から発す

若い世代に託したい

法学部教授 田中 和子

1981年に着任してから37年。この間、両親の同時介護や左足の大怪我など、教職の継続を困難にしかねない事態にも何度か直面しましたが、法学部の同僚や教務課職員の方々をはじめとする大勢の皆さんに助けられ、定年までこぎつけることができました。改めてお礼を申し上げます。

私が社会学、女性社会学、ジェンダー論の研究を通じて求めてきたのは、ジェンダー平等実現のための論拠を示すことです。講義やゼミの中では、学生の皆さんに、今ある女男関係をうのみにせず、「社会的想像力」(C・W・ミルズ)を駆使して、その自

複線型人生のすすめ

経済学部教授 大坂 健

近代人は生き甲斐という食べ物を摂らなければ生きていけない動物といわれている。近代人の宿命である。生き甲斐が多ければ、人々との交流を深めて自己の存在意義を確認し人格面での発達を促すことになろう。職業人生だけが生き甲斐の人、とりわけ「企業戦士」や「社畜」とよばれる人は非常に危うい。このような単線型の人生を送る人は、生き甲斐を失って自死するリスクが高くなる。近代人が精神的に豊かに生きようとするならば、多様

な生き甲斐にもつぎ人生を複線型に銜直す必要がある。この点でいえば、「問題解決型」の人材育成という単一モデルにそった教育目標は再考を要する。それは単線型人生につながりやすいからである。むしろ、近代人の特殊性を踏まえて、自らが多様な生き甲斐を見つけ出し、それらと社会との関係を考えさせるように教育理念・目標を再設定することが大切ではないだろうか。

教わり教えた36年

神道文化学部教授 井上 順孝

心に残っている映画の1つが「ヤコブへの手紙」(2011年公開)です。信者たちからの手紙に返信することで、信者を支えてきたと思っている年老いた牧師が主人公です。ところがある事実を知ったことをきっかけに、実は自分こそ信者たちの存在に支えられてきたことに気付くシーンがとて印象的でした。

教員というのは、学生たちに一方的に教えていると思いがちです。大教室の講義だと、どうしてもそのような気分になってしま

います。しかし教えているつもりでも、講義やゼミの受講生からも多くのことを学んでいるのだということを、だんだん強く感じられるようになりました。とくに自分が研究や教育を続けていく上で大きな励みを与えてくれるというところを、実感するようになりました。交わした言葉からだけでなく、視線や態度からも、メッセージは伝わってきます。国学院大学で過ごした36年の経験が、そのような気づきをもたらしてくれたのだと思っています。

あつという間に

研究開発推進機構事務課主査 小倉 健

月日のたつのは早いものである。昭和51年に国学院大学に勤務し、教務課に配属されてからあつという間にこの日を迎えた。この間、9回の人事異動を経験し多くの出会いがあった。先輩に恵まれ、勤務当初から厳しく優しく指導を受け、仕事の後に居酒屋に直行し、大学の将来について語り合った。その頃の先輩は親身になって相談できる相手であり、家に伺ったり、一緒に旅行に出かけた。そこで社会人としての心構えや礼儀作法などさまざまなことを教

わった。この経験がいままで勤務する上で大いに役立った。仕事では基盤の隅に基石を一つ置く程度の働きしかできなかった。周りには語学が堪能であったり、文才のある方がいて優秀な職員が多い。その中において十分に力を発揮できなかったように思われる。限られた字数の中で、これまでの思いを書き尽くすことはできないが、研究開発推進機構事務課員をはじめ、温かく接していただいた方々に心よりお礼申し上げます。

新卒業・修了生の資格取得人数

平成29年度卒業・修了生(9月卒業含む)のうち、各種資格を取得した人数は次の通り。
◇神職▽明階検定合格・授与24人(学部)▽明階授与1人(大学院)▽明階検定合格・正階授与129人(専攻科・学部)▽権正階検定合格・授与2人(別科神道専修I類)▽正階検定5人(別科神道専修II類)◇博物館学芸員

151人(学部)◇社会教育主事18人(学部)◇図書館司書78人(学部)◇学校図書館司書教諭32人(学部)◇教職▽高校一種460人(学部)▽中学一種355人(学部)▽小学校一種142人(学部)▽幼稚園教諭一種114人(学部)▽保育士97人(学部)▽中学専修12人(大学院)▽高校専修14人(大学院)

若木育成会が成績優秀者を表彰

若木育成会(加藤圭子会長)は、平成29年度卒業・修了生で優秀な成績を修めた次の学生を表彰する(敬称略)。
◇文学部▽石川愛梨、塩野ゆり子(日文)◇経済学部▽出口直人、湯浅恵(経)、石渡峻大、寺田樹璃(経)
◇法学部▽齊藤一輝、鈴木藍可

(4)、北川真伍、三浦宏仁(3)◇神道文化学部▽泉玲那、佐藤凜、瀬戸雅未、寺門久仁子◇人間開発学部▽上遠野穂、村島彩香(初教)◇専攻科神道専攻▽牧田小有玲、馬淵信考◇別科神道専修▽吉宮雅胤(別専I)、松木裕祐(別専II)

神社界からの表彰

神職課程に学び、成績優秀な平成29年度卒業・修了生に対して神社界から次の各賞が贈られた(敬称略)。
◇神宮大司賞▽牧田小有玲(神専攻)▽江連恰那(神文)▽吉本けいと(同)◇

神社本庁統理賞▽馬淵信考(神専攻)▽椿拓磨(神文)▽廣瀬勝(同)▽松木裕祐(別神II)◇東京都神社庁長賞▽深澤景光(神専攻)▽坪田啓佑(神文)▽永井承吾(同)▽吉宮雅胤(別神I)

卒業おめでとうの言葉

大学院・法科大学院の新修了生・所定単位取得退学者には、本学から「オリジナル図書カード」と「オリジナル一筆箋」、5学部・専攻科・別科の新卒業生・修了生には、本学から「オリジナルペンケース」、若木育成会からは、「オリジナル名刺入れ」を贈ります。



教職員人事

【退職】(3月10日現在)

◇文学部▽教授▽田嶋一▽西村清和◇教授(特別専任)▽千々和到▽豊島秀範▽宮元啓一◇法学部▽教授▽田中和子◇経済学部▽教授▽大坂健◇神道文化学部▽教授▽井上順孝◇大学事務局

専任)▽今井秀智◇教育開発推進機構教授▽中山都◇大学事務局▽専任▽杉崎正彦(研究開発推進機構事務課主幹)◇解職◇法科大学院▽准教授▽河合繁昭

◇専任▽小倉健(研究開発推進機構事務課主査)

◇任期満了◇文学部▽助手▽中島金太郎◇大学事務局▽嘱託▽石井匠(研究開発推進機構事務課博物館嘱託学芸員)

自己都合

◇人間開発学部▽助手▽鈴木玉香◇法科大学院▽教授▽武田誠◇教授(特別

以上3月31日付

インフォダイジェスト

校 友 課

◎住所などの変更

卒業後に住所・勤務先などの変更が生じた場合は、はがき、電話、ファクス、または本学ホームページから校友課まで連絡をお願いします。

◎各種調査・個人情報について

本学が電話や郵便物で院友の皆さんの個人情報について調査する場合は、「渋谷キャンパスの住所および本学校友課名」にて実施し、返送先・連絡先も本学宛となります。

本学をかたり、住所・電話番号などの個人情報を集める業者があるようです。ご本人のいないとき、郵便物や電話で情報を聞き出す場合もありますので、不審な郵便物・電話などによる連絡があった場合には即答せず、校友課までお問い合わせください。

現在、本学では卒業生名簿の作成・販売・閲覧サービスは行っていません。

■校友課

(☎03・5466・0131、FAX03・5466・0185)

学 生 生 活 課

◎日本学生支援機構奨学金を返還する方へ

日本学生支援機構(JASSO)奨学金の貸与者は、次の要領で返還を円滑に行ってください。

- ①住所・氏名・勤務先・連帯保証人などに異動があった場合は、速やかにJASSOへ連絡してください。その際は奨学生番号が必要となるので、「返還確認票」「返還のてびき」を大切に保管してください。
- ②返還困難な状況が生じた場合、JASSOに減額返還や返還期限猶予を願い出ることができまのでJASSOに相談してください。

就職担当3課 (キャリアサポート課・教職センター・たまプラーザ事務課)

◎卒業後も協力を 進路未定者は相談を

新卒業生の皆さんには、進路の別を問わず本学在学生の就職活動のため協力をお願いします。また、進路未決定の方には継続して相談に応じますので、お気軽にご利用ください。

■キャリアサポート課 (☎03・466・0151)

教職センター (☎03・5466・0152)

たまプラーザ事務課 (☎045・904・7704)

教 務 課

◎証明書の発行方法

各種証明書の発行方法は、①本学内の証明書自動発行機(在学当時の学籍番号とパスワードによる)②郵送③窓口の3通りです。①は即時発行、②③は原則として申請日から3業務日後(長期休暇前後は、さらに時間を要します)の発行です。英文証明書は約1週間後の発行となります。

※申請時には身分証明書(健康保険証や運転免許証)が必要となります。氏名などに変更があった場合は申請時に戸籍抄本を添えてください。

■各証明書とも1通400円(英文証明書は1000円、郵送希望の場合は別途送料)

■教務課 (☎03・5466・0137)

たまプラーザ事務課 (☎045・904・7703)

◎卒業論文の返却

必ず各指導教員から返却を受けてください。

エクステンション事業課

◎オープンカレッジを開講しています

エクステンション事業課では、生涯学習の学びの場として、渋谷・たまプラーザ両キャンパスでオープンカレッジを開講しています。院友の場合、入会金(入会年度を含め4年間有効)5000円を3000円、更新料3000円を2000円とする割引料金が適用されます。会員には、毎年のオープンカレッジ、公開講座など本学主催講座(会員料金で受講可能な講座もあり)の案内を無料で送付します。

本学の得意分野である神道、文学、歴史、書道などの講座を多数開講しております。無料パンフレットをご請求ください。

■エクステンション事業課 (☎03・5466・0270)

図 書 館

◎卒業後も図書館を利用できます

卒業後も渋谷・たまプラーザ両キャンパスの図書館が利用(館内での閲覧、貸出、文献複写)できます。貸出冊数は和・洋書ともに5冊、日数は14日間です。遠方にお住まいの方で文献複写が必要な場合は、文書による申し込みもできます。

図書館カウンターで申し込むと、次年度4月末まで有効の「図書館利用者カード」(両館で使用可)を発行します。

※カード発行には、運転免許証など現住所が確認できる身分証明書が必要となります。

■図書館事務課 (☎03・5466・0159)

人 事 課

◎格安料金で自然を満喫 厚生寮をご利用ください

本学では、卒業生に対して厚生寮を格安料金で開放しています。



蓼科寮(長野県立科町)は、蓼科高原にあり、夏は近くにある御泉水自然園の散策、冬はスキーと四季折々の自然を満喫できます。また、敷地内にはバーベキュー棟もあり、大人数で楽しめます。

■1泊2食付き4000円(冬季は暖房費が別途加算) ※チェックインは午後3時、チェックアウトは午前10時です。

■ 1泊2食付き4000円(冬季は暖房費が別途加算) ※チェックインは午後3時、チェックアウトは午前10時です。 叢隠寮(神奈川県箱根町)は、折口信夫博士(釈超空)の別荘であった「叢隠居」を昭和33年に本学が譲り受け、これを保存するとともに宿泊施設を増築したものです。正面に富士山を望み、近くにはスキで有名な仙石原、箱根駅伝往路ゴール場所である芦ノ湖など名所旧跡もたくさんあります(叢隠寮は現在、建て替え工事のため閉館とさせていただきます。営業再開となりましたら、大学ホームページなどでお知らせいたします)。

■利用日の3週間前から人事課(☎03・5466・0105)で受け付けます。受け付け後、利用案内・申込書を送付します。詳細は本学ホームページでも案内しています。

総 務 課

◎広くご寄付を募っています

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性ある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。



本法人に対するご寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。利用可能なクレジットカードは、VISA、MasterCardの2種類です。

募集するご寄付の種類は、「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」などに加え、学生の課外活動を支援するために役立てられる「課外活動支援(スポーツ強化部会など)」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツ活動や課外活動などに熱心に取り組んでいる在大学生や本学に向け、ホームページ上からメッセージを直接投稿してもらう仕組みです。ワンコイン(500円)からご寄付が可能で、メッセージはそのままホームページに公開されます(匿名可)。ぜひ後輩にエールをお寄せください。

各種募金に関する情報は、ホームページ(<http://kifu.kokugakuin.ac.jp/>)で閲覧できます。

◎税制上の優遇措置

本法人への指定寄付金は、次の通り税制上の優遇措置を受けることができます。

個人=個人所得税については、特定公益増進法人への寄付金としての「所得控除」、または一定要件を満たした学校法人などへの寄付金としての「税額控除」のうち、いずれかの税制を選択し、確定申告を行うことで所得税が減免されます。なお、多くの場合「税額控除」を選択すると減免が大きくなります。個人住民税については、お住まいの自治体が条例により本法人への寄付を税額控除の対象と指定している場合に限り、確定申告を行うことで住民税が減免されます。

法人=特定公益増進法人に対する寄付金として扱われ、所定の計算式に基づく限度額まで該当事業年度の損金に算入することができます。寄付金の申し込みと納付が確認できたら、本法人発行の領収書と文部科学省発行の証明書をお送りしますので、確定申告などの税務手続きを行ってください。

■総務課 (☎03・5466・0111)

◎遺贈による寄付制度

「遺贈による寄付」とは、院友・在校生の父母・教職員・一般篤志家が保有されている資産の一部を、将来遺贈の形で寄付していただき、本法人の教育研究活動のより一層の充実発展のために支援をいただく制度です。

本法人では、この制度を実施するにあたり、三井住友信託銀行と協定を結びました。本制度の利用を希望される場合は、総務課または最寄りの三井住友信託銀行までご一報ください。

■総務課寄付金担当 (☎03・5466・0111)

入 学 課

◎院友子弟等特別選考入試のご案内

本学では、院友の子弟らを対象とした「院友子弟等特別選考入学試験」を実施しています。

出願資格は、高校(中等教育学校含む)卒業あるいは卒業見込み、または高校卒業と同等以上の学力があると認められ、本学の学部・大学院・専攻科・別科などを卒業・修了した方の2親等以内の親族(配偶者・姻族含む)で、本学への入学を第1希望とする人。本学・本法人・姉妹法人の現職専任教職員についても院友に準じます。本学進学を希望する親族の方がいましたらご案内ください。

■入学課 (☎03・5466・0141)

国 学 院 大 学 生 協

◎卒業アルバムの購入受付中

大学生協では現在、卒業アルバムの購入を受け付け中です。先にお送りした郵便為替用紙(渋谷・たまプラーザ店舗でも配布中)か郵便局備え付けのものをご利用いただき、通信欄に、学部・学科・学籍番号・郵送先住所を明記の上、郵便局の窓口でお振込みください。締切は3月30日(金)。発送は9月末ごろになります。

※保護者の方が購入された場合、「卒業生本人が写っていない」と連絡が寄せられることがあります。写真撮影をされているかをご家族で確認した上でお申し込みください。

■振込先(加入者名)・口座番号=国学院大学生協同組合・0015-6-50152

■1万3500円(消費税・送料込み)

◎オリジナルスイーツや人気グッズはいかが？

大学生協では、オリジナルスイーツの「国学院どらやき」(1550円)とコロンパンとの企画による「国学院クッキー」(1080円)や、ぬいぐるみをはじめとした国学院大学マスコット「こくびよん」の各種グッズ、ブルゾンやフリースマフラー、キャップなどの本学オリジナルグッズを販売しています。配送も承っています。



左から、国学院どらやき、「こくびよん」グッズ、国学院クッキー

■国学院大学生協同組合 (☎03・5466・0169) または<http://www.kgucoop.or.jp>